

こんにちは、 日本共産党井上けんじです

日本共産党南地区委員会 ☎ 371-9164 自宅 ☎ (F兼) 691-3323 (携帯) 090-7880-9442
 日本共産党京都市会議員団 ☎ 222-3728 FAX 211-2130
 市会議員団ホームページ <http://cpgkyoto.jp/> E-mail info@cpgkyoto.jp 2019年2月16日号



一般財源収入の予算案

単位は億円	2019 年度予算	2020年度 予算案	対前年度増減(△は減)	
			額	率(%)
市税	3,001	2,988	△13	△0.4
個人市民税	1,142	1,170	28	2.4
法人市民税	333	259	△73	△22.0
固定資産税	1,069	1,094	25	2.3
宿泊税	42	42	0	0.0
府税交付金	343	444	102	29.7
地方交付税等	994	857	△137	△13.8
地方譲与税	62	60	△1	△1.7
臨時交付金	13	0	△13	皆減
財政調整基金	19	0	△19	皆減
一般財源 収入総額	4,431	4,349	△82	△1.8

※ 単位は億円。これ以外に、用途限定の国からのお金などもあり、実際の予算規模は7,840億円(特別会計や交通・水道は除く)。

※ 府税交付金の大部分は、消費税の一部(地方消費税2.2%)が京都府を経由して市にも来ているということです。要するに消費税頼みで、国も自治体も大手減税・庶民増税で賄われているということです。交付税とか譲与税というのは国から自治体へ来るお金です。

臨時交付金は保育無償化にかかわる国からのお金。財政調整基金は、市で、一定額を貯めておき、臨時の支出などに充てる予備費のようなものですが、遂に、今年度補正予算で使い果たしてしまい、来年度は0ということになります。



13日、市長が来年度京都市予算案を発表。しかし市長選で夢と希望を語ったハズなのに、一般収入が、対前年度比、大幅に落ち込み、

望を語ったハズなのに、一般収入が、対前年度比、大幅に落ち込み、

制度の廃止や見直し、基金の取り崩し、新たな市債の発行など、ま

市来年度予算案の概要

観光消費額アップと言いながら、収入は減
 国の責任もあるがそこへの問題意識も無し
 景観政策は「特例」連発で事実上見直し
 基金取り崩しと市債発行の破れかぶれ予算!?

八方ふさがりの京都市財政



① 制度発足以来、保険料は引き上げられ続け、負担は限界。被保険者一人当たり所得は約52万円、均等割で1割にも値上げはすべからぬ。

② 保険給付費をベースにして保険料必要額を逆算する計算方法自体が問題。支払能力が

※ 先週号にて既報の通り、7日、後期高齢者医療広域連合の議会が開かれ、保守系議員の賛成多数で、来年度から2年間の保険料値上げが可決されました。井上議員は、値上げ議案は撤回すべきと質問、その要旨を紹介します。

後期高齢者医療、保険料値上げへ!?

撤回を求め、

さには八方ふさがり、破れかぶれの予算案、との井上議員の印象です。今後分析を深め、順次、紹介の予定です。20日から3月末まで、予算審議が続きます。

③ 保険料軽減に向け、対京都府・対政府へのアクションをもっと強化すべき。

④ 保険料の用途について。保険料は保険給付に充てられるべき。保健事業費は、住民の健康増進・保健予防・公衆衛生等、自治体または国の一般財源から賄われるべき。保険料の一部が保健事業費の一部に回っており、保険料高騰の一因。

⑤ 国は、窓口負担も、現行1割の一部を2割に引き上げる方針。ベツド数も強引に減らす方向。アベ内閣に対し、撤回を求めよ。

⑥ 社会保険としての社会保険・医療保険であり、保険料や一部負担金は、方向として、軽減が目指されるべき。